

（1）聖火リレーの概要

■東京2020オリンピック聖火リレー

・2021年3月25日（木）から7月23日（金）までの121日間（移動日を含む）、全47都道府県の859市区町村（延期前の実施予定数）で実施予定。聖火ランナー数は、約10000人。

- ・1日の終わりに聖火の到着を祝う「セレブレーション」を実施
- ・「出発式」または「ミニセレブレーション」を、各市区町村で任意実施

■東京2020パラリンピック聖火リレー

2021年8月12日（木）から8月24日（火）まで、全47都道府県で聖火フェスティバル、競技開催都県（静岡、千葉、埼玉、東京）で聖火リレーを実施。聖火ランナー数は約1000人。

（2）基本的な考え方

聖火リレーは、全国各地で多くの関係者が関わることから、感染症対策を徹底する。以下の観点から延期前の計画を検証し、感染状況や政府全体の感染症対策を踏まえた実施形態となるよう検討する。

- 観覧客・聖火ランナー・運営スタッフと地域住民の双方の安全・安心の確保
- 人が集まるリレールート沿道、セレブレーション等における十分な対策
- 体調不良者発生時の的確な対応

（3）具体的な対策の方向性

1 共通の対策

3密の回避の呼びかけ、手洗い・手指消毒やマスク着用の徹底、大声の会話等の抑制、事前及び当日における感染防止対策の周知 等

2 場面別の対策

①リレールート沿道

マスク着用等の呼びかけ、沿道における混雑を避けるための諸対策、グッズ配布時の対策 等

②セレブレーション等

観覧者の体調確認、会場内における密集を避けるための諸対策 等
※その時点での政府の「催物の開催制限等」を踏まえて実施

3 関係者別の対策

①聖火ランナー

走行時の対人距離の確保、事前及び受付時の体調確認、集合場所の密集回避 等
*海外から来日する聖火ランナーは、その時点での入国規制に従っていただくことを想定

②運営スタッフ等

体調管理の徹底、陽性者発生時の感染拡大を防止する体制の構築 等

4 体調不良者への対応

関係機関との連携等を含めた対応フロー、接触確認アプリ登録の推奨 等

- ・組織委員会は、聖火リレーの具体的な感染予防策を今年末迄に作成する。
- ・都道府県実行委員会など各ステークホルダーは、上記の感染予防策に沿って対策を実施する。